

8 月

の

学 校

「87日間の2学期が始まりました。」

9月に入ったのにまだ残暑が続いている今夏です。

朝から汗びっしょりになって、それでも毎日歩いて登校し挨拶してくる子どもたちに、そして暑いグラ

ンドに朝から飛び出していく子どもたちに元気ももらう毎日です。猛暑の中、玄関の6年生の菊鉢を始め、育ててきた花や野菜もがんばっています。そしてそれ以上に伸びた雑草採りに精を出したこの2週間でした。



見事に伸びた2年アサガオのグリーンカーテン



3年生は、おすすめ本のおびを作りました。



5年生「水泳発表」50m泳げた子が続出 8/30

各学年の「水泳発表会」そして廊下の「夏休み作品展」に、暑い中多くの保護者の方々が来てくださりありがとうございました。発表会の日に、初めて25m、50mが泳げた子たちもたくさんいました。それまでの練習の成果が、こういう機会に一気に出るように思います。級友や先生方、そしてお家の方々が応援するという特別な場だからこそ、乗り越えられたのでしょう。夏の一時ですが、子どもたちは本当に貴重な経験をしていると感じました。

「始業式」では、2年生と5年生の代表児童が一人ひとりの目標を発表しました。



2年生は目標を大きく書いて発表 8/19

「実りの二学期」です。運動会、様々な音楽発表会、縄文まつり、二つの大きな公開授業研究会、等々、子どもたちが「みんなで力を合わせて作り上げる」素晴らしい経験をしてほしい機会がたくさんあることを私からは伝えました。8月の水泳発表会から、まず大きな可能性を感じ、期待を覚えました。

「歌っていない校歌3番と、終戦記念日」

終業式、始業式には必ず校歌を歌います。ちょうどいい機会ですので、夏休みをはさんでの二つの式で、校歌について子どもたちに話をしました。102年前の明治41年に信濃の国の作者、浅井泷氏が作られた歌詞は、さすがに現代には難しい表現がたくさんあり、また短い文語表現の中に込められた多くの思いも感じたので、歌い慣れた歌詞ですが、さらに味わえて歌ってくれたらと思いました。そして、校長室の作詞原稿にはあり、以前は歌われていたと思われる、幻の3番のことも伝えました。参考にまでに以下の歌詞になります。

世に立つ後は何事も 心あわせてへだてなく
なりわい 生業はげみて家の富 國の富をもつくるべし」

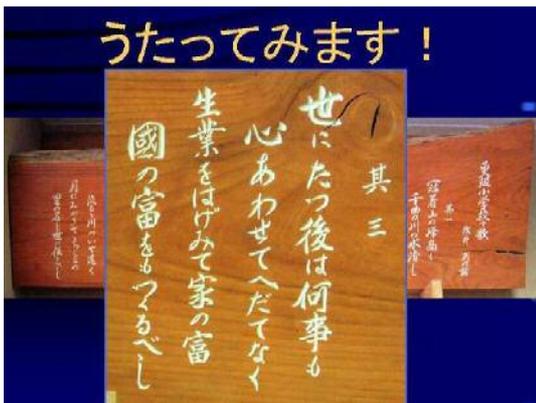


こどもたちが、世の中の役に立つ人になるようにという願いが込められた歌詞と、まず感じました。しかし、「国の富をもつくるべし」という部分に、作詞された時代、日清・日露戦争に勝ち富国強兵を国是としていた時代の雰囲気を感じないわけでもありません。65年前に終戦となった太平洋戦争では、国のために尽くすことが強調された時代でもあったので、終戦を境に歌われなくなった可能性もあるように思われました。



この3番がいつ頃から歌われなくなったか、どうして歌われなくなったのか、学校でははっきりとした資料が見つかりません。卒業生のおじいさん、おばあさんや他の家族の方がいたら、「ぜひ聞いて、校長先生に教えてください。」と、話を結びました。

子どもたちへの宿題になってもいますが、校歌の3番が歌われなくなったことについて、ご存じの方がおられましたら、学校までご一報下さい。



65年前昭和20年8月15日に
 終わった戦争に
 関係があるかも知れません。

S19.9
 豊島区
 西巢鴨第三
 国民学校
 491名が
 集団疎開
 更級小児童数
 1542名